

第2号様式（第6－1）

会議開催結果

1	会議の名称	令和6年度第1回富津市廃棄物減量等推進審議会
2	開催日時	令和6年8月9日（金） 10時00分～10時41分
3	開催場所	富津市役所2階 第一委員会室
4	審議等事項	（1）会長の選出について （2）新環境センター整備事業について （3）その他
5	出席者名	〔会 長〕 宮崎晴幸 〔副会長〕 川口泰明 〔委 員〕 荒井輝久、三平正美、森田葉子、兎原剛史 刈込真雄、藤野一夫、大野泰代、森田房江 吉原徳男、斎藤昇、鈴木善孝 〔市 長〕 高橋恭市 〔事務局〕 木村市民部長、錦織環境保全課長 江澤課長補佐、渡邊環境衛生係長、渡部主事 〔関係者〕 行政経営アドバイザー 妹尾章正
6	公開又は非公開の別	☒ 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	（理由）
8	傍聴人数	1人（定員5人）
9	所管課	市民部環境保全課環境衛生係 電話 0439（80）1273

富津市廃棄物減量等推進審議会会議録

発言者	発言内容
渡邊係長	開会（10：00） それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。 委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。 私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます事務局市民部環境保全課の渡邊と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 審議会に入る前に、本日の委員の出欠状況をご報告させていただきます。出席委員13名、欠席委員2名でございます。したがって、富津市廃棄物減量等推進審議会運営規則第5条の規定により、半数以上の出席をいただいておりますので、ご報告申し上げます。 なお、会議録作成のため録音させていただきますことをご了承願います。 また、本審議会は、富津市情報公開条例の公開対象であります。 本日の傍聴者は1名であることをここでご報告いたします。 なお、会議の進行につきましては、お手元に配付してございます会議次第により進めさせていただきますので、ご了承のほどお願い申し上げます。 それでは、ただいまから令和6年度第1回富津市廃棄物減量等推進審議会を開会いたします。 本日は今年度1回目の会議であり、委員の改選等ございましたので、委員及び事務局職員の紹介をいたします。
錦織課長	（出席委員及び事務局職員紹介）
渡邊係長	続きまして、富津市長高橋恭市からご挨拶を申し上げます。
高橋市長	（市長挨拶）
渡邊係長	それでは、これより議題に入ります。 現在、本審議会の会長が空席となっております。 そのため、富津市廃棄物減量等推進審議会運営規則第4条第1項及び第2項の規定により、副会長の川口泰明委員に会長の職務代理として会議の議長を行っていただきます。

	よろしくお願いいたします。
川口議長代理	それでは、会長が選出されるまでの間、私が議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。 では、会議次第に沿いまして進めさせていただきます。 議題1「会長の選出について」を議題といたします。 会長の選出につきましては、富津市廃棄物減量等推進審議会運営規則第2条第2項の規定により、委員の皆様のご互選となっております。 委員の皆様方から何かご意見がございましたら、お伺いしたいと思います。 何かございますでしょうか。
斎藤委員	議長。
川口議長代理	斎藤委員。
斎藤委員	宮崎晴幸委員に会長を務めていただいてはいかがでしょうか。
川口議長代理	ただいま斎藤委員の方から、会長は市議会の宮崎晴幸委員を推薦されるとのことでした。委員の皆様いかがでしょうか。 (異議なしの声)
川口議長代理	異議なしということなので、宮崎晴幸委員に会長をお願いしたいと思います。 新しい会長が決まりましたので、議長代理の職はこれで解かさせていただきます。皆様ご協力ありがとうございました。
渡邊係長	それでは、宮崎会長につきましては、会長席にお着きいただきたくよろしくお願いいたします。 それでは、宮崎会長からご就任のご挨拶を頂戴したいと思います。
宮崎会長	(会長挨拶)
渡邊係長	ありがとうございました。 それでは、会議の議長は、富津市廃棄物減量等推進審議会運営規則第4条第1項の規定により、会長が務めることと規定されておりますので、宮崎会長に議長をお願いいたします。

宮崎議長	それでは、会議を進めさせていただきます。 議題に入る前に、会議録署名委員を指名させていただきます。今回は荒井委員、藤野委員に議事録署名人をお願いいたします。 それでは、議題に移ります。議題2「新環境センター整備事業について」事務局に説明を求めます。
錦織課長	議長。
宮崎議長	錦織課長。
錦織課長	それでは、議題2「新環境センター整備事業について」ご説明させていただきます。 それでは配付資料の1をご覧ください。 新環境センター整備事業につきましては、令和6年3月15日開催の令和5年度第1回富津市廃棄物減量等推進審議会におきまして、本市の財政状況を鑑み、令和5年9月策定の富津市中期収支見込みへの事業計上を見送り、計画を一時休止する旨をご報告させてもらったところでございます。 今年度、市全体の普通建設事業につきまして、再検討を行ったところ、本事業が今年度策定の富津市中期収支見込みへ再度計上される見通しとなりましたので、説明をさせていただきます。 最初に1としまして、令和5年6月に策定しました富津市一般廃棄物処理施設整備基本構想の概要を確認の意味で改めてご説明させていただきます。 まず①としまして、現在の富津市環境センターは、昭和51年4月の稼働から長年が経過し、老朽化が激しい状況にあることから、新施設を整備する必要がある。 ②としまして、新環境センターの整備候補地は新富地区の富津市クリーンセンター隣接地で検討を進める。 ③としまして、現在環境センターで実施をしております、びん・缶・ペットボトルの資源ごみ処理業務については民間委託とし、不燃・粗大・直接搬入分は新施設で受け入れるケースを基本とし、本市の実情に合った整備内容・処理方式の検討を行う。 ④としまして、災害廃棄物の処理も可能となることから破砕設備の導入を検討する。 ⑤としまして、本市の現状や費用面を考慮し、現実的な選択をするために、より効果的な新施設の設備構成を引き続き検討する。

⑥としまして、概算事業費につきましては、２段破碎方式フルスペックで約43.5億円から低速破碎機のための30.9億円としています。

５ページをお開きください。

表に記載のとおり、破碎機の方式により、ケース１からケース４の検討案がございます。

表の下段にそれぞれの概算事業費を記載しておりますので、ご参考いただきたいと思います。

１ページにお戻りください。

⑦の整備及び運営方式でございます。

６ページをお開きください。

整備、運営方式につきましては、従来方式として、施設の設計・建設は市が行い、運営委託を民間事業者と個別契約する方式、長期包括的運営方式として、従来方式の運営委託部分において、長期にわたり包括的に契約する方式、公設民営方式として、設計・建設と維持管理・運営を一括で発注する方式、民設民営方式として、設計・建設と維持管理・運営を一括で発注する方式で、設計・建設にあたっての資金調達も民間に委ねる方式などがございます。

これらの方式から民間活力を最大限に生かした、本市にとって効率的で最適な方法を軸に調査検討していくこととしております。

事業スケジュールでございますが、７ページをお開きください。

下段の表のとおり、構想策定時の計画では、令和６年度から基本設計及び各種調査、令和８年度から施設整備建設工事、令和１０年度から新施設の稼働を計画していたところでございます。

以上が令和５年６月に作成しました基本構想の概要となります。

資料の２ページをご覧ください。

次に２としまして、令和５年９月策定の中期収支見込みにおいて、本事業を一時休止とする判断をしたことについて、その経緯を改めてご説明させていただきます。

昨今の様々な要因による物価高騰の影響を受け、光熱費等の経常経費や普通建設事業費が大幅に増額となる試算となりました。

物価高騰等に対応するための国庫補助金等の大幅な増額が見込まれない中、普通建設事業費の財源として借金である地方債の発行に頼らざるを得ない状況となり、後年度に義務的経費となる公債費が急激に増加し、将来に向けて持続可能な行政運営が困難になることが危惧される見通しとなったところでございます。

このため、新環境センター整備を始めとした普通建設事業は、改めて事業手法の見直しや優先順位について再検討を行い、事業を選択することで、後年度へ過大な負担を残さない収支見込みの作成に努めた

ことにより、本事業については、施設の整備手法や整備時期を含め、見直しすることとなったことが、計画を一時休止する判断をした経緯となります。

このようなことから当事業の重要性も鑑み、改めて事業計画の見直しを行ったものでございます。

3「事業計画の見直し(案)について」をご覧ください。

見直しの概要といたしましては、普通建設事業の優先順位について再検討を行った結果、青堀小学校校舎改築事業が完了した後の令和12年度及び令和13年度に新環境センター建設工事を実施するため、令和9年度から基本設計や各種調査を実施し、令和14年度から新施設の稼働を目指すという計画となっております。

3ページの上段の表がご説明させていただきました、見直し後の事業スケジュールとなっております。

なお、令和9年度から令和11年度の3か年分につきましては、今年の9月策定の中期収支見込みに計上される予定としております。

次に4の今後の取り組みでございます。

新環境センターの整備につきましては、前段でもご説明させていただいた構想を基本とし、近年の物価高騰等の影響に対応するため、本市の現状や費用面に配慮した施設規模・設備構成・事業費等を引き続き検討してまいりたいと考えております。

また、新環境センターの整備のための財源につきましては、今後特定目的基金を設置し、計画的に積み立てを行うことで必要な財源の確保を行ってまいりたいと考えております。

なお、令和6年12月富津市議会定例会において、基金条例の上程を行う予定としております。

現環境センターにつきましては老朽化が著しいところでございますが、新施設の稼働までの間、稼働を継続する必要があるとございます。

このようなことから、しばらくの間、事業継続に向けた最低限度の設備補修が必要となりますので、設備等の状況を見極めた中で、効率的な補修を目指してまいりたいと考えております。

最初にも述べましたが、びん、缶、ペットボトルの資源ごみ処理ラインにつきましては、経年劣化が特に著しいことから、大規模な補修には相当の経費が必要となるため、原則補修を行わず、資源ごみ処理業務の民間委託を先行して進めてまいりたいと考えております。

現状におきましては、令和7年度中の移行を予定しているところでございます。

最後となりますが、新施設の具体的な施設規模や設備構成、運転管理体制などについては今後検討していくこととなりますが、本日は昨

	年度一旦休止となった当時について、実施に向けて再検討させていただいた内容について、ご報告させていただいたものでございます。 今後、皆様には当事業の実施に向けまして、またいろいろとご協議をお願いさせていただきたいと考えております。 引き続きご協力いただきたくよろしくお願い申し上げます。 簡単ではございますが、議題2「新環境センター整備事業について」の説明は以上でございます。
宮崎議長	ただいま事務局から説明をいただきましたが、質疑等はございますでしょうか。
川口副会長	はい。
宮崎議長	川口副会長。
川口副会長	確認ですが、前年度、前回の計画の説明の中で、現在建設中の廃棄物の溶融施設、これが十分に機能を発揮できるようにこの環境センターを廃棄物溶融施設と連携して補完するというような施設にするという説明がございました。 今回、事業計画の見直しをしてもこの方針というのは継承されるかどうかというのを伺いしたいと思います。
錦織課長	議長。
宮崎議長	錦織課長。
錦織課長	お答えいたします。 新施設との連携は大変重要になってくると思いますので、その辺の考えは変わりません。継続した形で行ってきたいと考えております。 以上でございます。
川口副会長	ありがとうございます。
宮崎議長	他にご質疑はございますか。 質疑もないようですので、ここで行政経営アドバイザーとして本日もご参加いただいております、妹尾章正様より本議題に係るご意見をいただきたいと思います。 それでは妹尾アドバイザーよろしくお願いします。

妹尾アドバイザー

妹尾でございます。

3月に一時休止というお話を伺いまして、現施設が江澤所長以下、大変厳しい環境で運営されているというのを気にしておりましたので、どうなることかと思っておりましたが、今回令和14年ということで明確に年度を決められまして、財源の手当をされたということで大変安心いたしました。喜ばしいことと思います。

3点ほどコメントさせていただきます。

1番目でございますけれども、年度が決まったとはいえ、大変厳しい環境で施設を維持運営されるのは大変なことかと思えます。

この資料にも出ておりますが、受変電設備の変更等、記載されておりますけれども、建屋もいつまでもどこまで手を入れなきゃいけないかと悩みながらの運営になろうかと思えますので、必要な補修の措置につきましては、ぜひ機動的にやっていただければと思います。

それから2点目は資源ごみの民間委託のことでございます。

民間の業者に資源ごみを委託されるということ自体は、一般廃棄物の世界でそれなりの多数やっておられることと思えますので、千葉県下でそういう事業に長けた事業者もおられますので、これ自体は大変よろしいことかと思えます。

ご存知の方もおられると思いますが、資源ごみにつきましては、上手く分別をして、きちんと選別して管理いたしますと結構な収入を得ることができます。

ペットボトルあたりは最近5万円/t、kgでいうと50円/kgですけれども、そういう価値のあるものも入っておりますので、民間とうまく連携されて、そのような価値あるものをきちんと管理されるのはよろしいかと思えます。一方で、民間に委託されること自体はよろしいかと思うのですが、どうしても民間任せになりますと、自治体側での管理といたしますか、少し離れがちになりますので、そこについては現在です、環境保全課の方で廃棄物に長けた人材を何名か置いておられますが、ぜひ継続して自治体側からの管理といたしますか、見極めといたしますか、そういったところもぜひ継続してやっていただければと思います。

それから3点目でございますが、今後令和14年度に向けてですね、令和9年度から本格的に検討をされるということで伺っておりますけれども、少し間が空きますので、逆に言うとじっくり検討される時間ができたということかと思えます。設備構成なり、運営方式なり、大変いろんな形が昨今出てきておりますので、他自治体の事例も参考にされながらですね、富津市にとってより良い施設を検討されることを

	お祈りしております。 先ほど川口様の方から新熔融施設の連携というお話ございましたが、今の施設に比べて、今度は発電効率が大変高い施設になりますので、余剰電力も相当増えると聞いております。 現環境センターも熔融施設からの余剰電力を活用されて効率的な電源を確保されていますので、今回これだけの施設を構えられますと、それなりの所要の電力も出てこようかと思いますが、年次はずれますけれども、うまく熔融施設側からの電力を活用されて、効率的にやるのがよろしいのではないかと考えております。 以上でございます。
宮崎議長	ありがとうございました。 それでは続きまして報告事項に移ります。 報告事項1「富津市ごみダイエット作戦100について」事務局の説明を求めます。
錦織課長	議長。
宮崎議長	錦織課長。
錦織課長	それでは、報告事項1「富津市ごみダイエット作戦100について」ご説明させていただきます。 配付しました資料の報告資料1をご覧ください。 まず、富津市ごみダイエット作戦100の内容について説明させていただきます。 1の「富津市ごみダイエット作戦100とは」をご覧ください。 本事業は、令和元年度から開始しました、ごみの減量化への取り組みであり、富津市民1人1日当たりのごみ排出量を平成29年度の1,062gと比較して100g減らすことを目標としております。ごみの減量は環境への負荷の軽減はもちろんですが、本市のごみ処理経費の軽減にも繋がることなどから、取り組みを進めているごみの減量化を目的とした事業でございます。 なお、削減できたごみ処理経費の一部は市民生活に直結した子育て支援や防災、教育などの事業に充てることとしております。 次に2の「目標値の設定」につきましては、資料に記載のとおり第1目標から最終目標値まで段階的に設定し、段階的な目標が達成できた時点で削減された経費の一部を市民生活に直結する事業に充てるものでございます。

	なお、最終目標値である100gの削減を達成した時点で、事業の見直しを行うこととし、ごみ減量の取り組みについては継続していくこととなっております。 次に3の「市の取り組み」でございます。 市としましては、ホームページや広報紙、区長回覧、出前講座等により、市民がごみ減量化、資源化に向けた取り組みやすい情報を提供し、本事業を幅広く呼びかけております。 また、1年間の取り組み結果を毎年度、市ホームページ及び広報紙で公表しているところでございます。 2ページをご覧ください。 4の「ごみ総排出量の推移」でございます。 ごみの総排出量は平成29年度から1万7,000t前後を推移しておりますが、令和元年度以降は減少を続けております。 ごみの内訳としましては、家庭ごみが一番多く、全体の約6割を占めている状況でございます。 次に5の「1人1日当たりのごみ排出量の推移」でございますが、1人1日当たりのごみ排出量は令和元年度以降減少傾向にあります。 令和4年度は1,026gで、平成29年度と比較し、36gの減量となり、第1目標を達成したところでございます。 また、令和5年度は995gで、平成25年度と比較し、67gの減量となり、第3目標を達成しております。 しかしながら、ご覧のとおり本市のごみ排出量は、全国平均をまだまだ上回っていることから、引き続き最終目標である100gの削減に向け、積極的な情報提供等により、ごみの減量化、資源化に向けた取り組みを推進してまいりたいと考えております。 簡単ではございますが、報告資料報告事項1「富津市ごみダイエット作戦100について」の説明は以上でございます。
宮崎議長	ありがとうございました。 ただいま事務局から説明をいただきましたが、質疑等はございますでしょうか。 (質疑なし)
宮崎議長	質疑もないようですので、続きまして報告事項2「ごみ出しおたすけアプリについて」事務局に説明を求めます。
錦織課長	議長。

宮崎議長	錦織課長。
錦織課長	それでは、続きまして報告事項の2「ごみ出しおたすけアプリについて」ご説明させていただきます。 配付しました資料の報告資料2をご覧ください。 令和5年6月からごみ出しおたすけアプリ「さんあ〜る」の配信をスタートしております。 本アプリは、ごみの収集日や分別方法などごみに関する情報をお知らせするスマートフォン対応の無料アプリであり、市民への積極的な情報発信及び市民の利便性向上並びに廃棄物の分別の徹底、再資源化の推進を目的に導入したものでございます。 当日の収集品目がスマートフォンに通知されるなど、非常に便利なアプリであると考えております。 なお、アプリの利用状況といたしましては、令和6年7月末時点のユーザー数は1,704ユーザーとなっております。 委員の皆様におかれましても、本アプリをご活用いただくとともに、恐縮ではございますが、我々も益々の推進を考えておりますので、アプリの周知につきましてご協力いただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。 簡単ではございますが、報告事項2「ごみ出しおたすけアプリについて」の説明は以上となります。
宮崎議長	ありがとうございました。 ただいま事務局から説明をいただきましたが、質疑等はございますでしょうか。 (質疑なし)
宮崎議長	それでは、最後に議題3「その他」ですが、委員の皆様から何かございますでしょうか。
藤野委員	はい。
宮崎議長	藤野委員。
藤野委員	資源ごみであるペットボトルが別にあるのに、収集する方が全部混載で持って行ってしまうというのをたまたま見かけたので、そういう

	ことが許されていていいのかなと。 業者に対する指導徹底というか、そういったことをもう一度してもらった方がいいとその事例を見て感じましたので、適正な指導を一つお願いしたいと思います。 以上です。
宮崎議長	その他にご意見のある方はいらっしゃいますか。
荒井委員	はい。
宮崎議長	荒井委員。
荒井委員	このごみダイエット作戦100は、事業所排出ごみは別で、一般ごみだけですよね。
錦織課長	議長。
宮崎議長	錦織課長。
錦織課長	お答えします。 ごみダイエット作戦100の対象については、一般家庭ごみだけではなく、事業系ごみも含めたもので、1人1日当たりの排出量を計算しております。
荒井委員	ありがとうございます。 これから資源ごみを民間に任せるということで、富津市はペットボトルと缶、びんは一緒に今出しているわけですが、色々な方に伺ったところ、分別は大変だと。しかし、アドバイザーの方が先ほどおっしゃったように、分別をする方が良いのではないかと思います。 また、業者がベルトコンベアに流れてきたものを分別している写真もありましたが、そのようなことも考えると、業者の負担軽減を考えて、各家庭で分別をすれば教育的な面からも良いので、そのような考え方をしていただけないかという提案です。
錦織課長	議長。
宮崎議長	錦織課長。

錦織課長	お答えします。 ご提案をいただきましたのでそのようなところも含めて今後の実施の仕方について検討してまいりたいと思います。 ありがとうございます。
妹尾アドバイザー	はい。
宮崎議長	妹尾アドバイザー。
妹尾アドバイザー	僭越ではございますが私の方から経験を踏まえまして、コメントさせていただきます。 資源ごみの分別に関しましては、各自治体でお決めになられることですので、いろんな方法がございます。 荒井先生ご指摘の缶、びん、ペットボトルを分けておられる自治体もおられるのですが、私から見ますと、今のやり方が富津市の中では一番効率的ではないかなと考えております。といいますのも、分けるのは各家庭でお手数をお掛けすれば分けていただけるわけですが、今度収集する車、これを全部別仕立てにしないといけないというところで、これがまた結構手間といいますか、色々な負担がかかります。 私が今勤務しております、さいたま市などではですね、資源ごみの日にその３種類を別々の袋に入れて出すことになっているのですが、そうすると収集される際に混在してしまったりとか、その収集所に出される出し方で混ざってしまったりというような混乱も起きておりまして、いろんな考え方があろうかと思いますが、富津市のこの規模と数量からいきますと、それから収集事業者がきっちりと見極めておられる立場からいきますとですね、缶、びん、ペットボトルを資源ごみとして一括回収されるというのは、それなりに合理性があるのではないかと考えております。 一方で、今後また議論になると思うのですが今、容器包装プラスチックを分別されていますが、プラスチック新法というのができまして、製品プラスチックという容器包装以外を分ける動きが世の中的には出てきておりますので、今後の分別についてはですね、その辺どうされるかっていうのもいろんな考えがあろうかと思いますが、ペットボトルについても皆さんご承知かと思うのですが、キャップとラベルを剥いでというのを徹底されていると思うが、なかなかこれがどこまでできているかというのもありまして、昨今では、ペットボトルのキャップだけを別に集める民間事業者も出てきたりしておりますので、やは

	り資源ごみの分別と分けたものの価値をですね、最大限にするという意味では色々なやり方がありますので、幅広く検討されるのがよろしいのではないかと思います。 以上でございます。
宮崎議長	他に委員の皆様からのご質疑等がございますでしょうか。 ないようですので事務局から何かございますか。
錦織課長	議長。
宮崎議長	錦織課長。
錦織課長	はい。 それでは、次回の審議会の開催につきましてご説明します。現時点では特に決まっておりませんが、本日議題となりました新環境センター整備事業の進捗や、皆様にお諮りする議題が生じた時点で委員の皆様にはご連絡差し上げたいと考えておりますので、よろしくお願いします。 以上でございます。
宮崎議長	次回の会議について、委員の皆様よろしいでしょうか。 それでは、以上をもちまして、令和6年度第1回富津市廃棄物減量等推進審議会を閉会といたします。 本日はお疲れ様でございました。 閉会（10：41）